

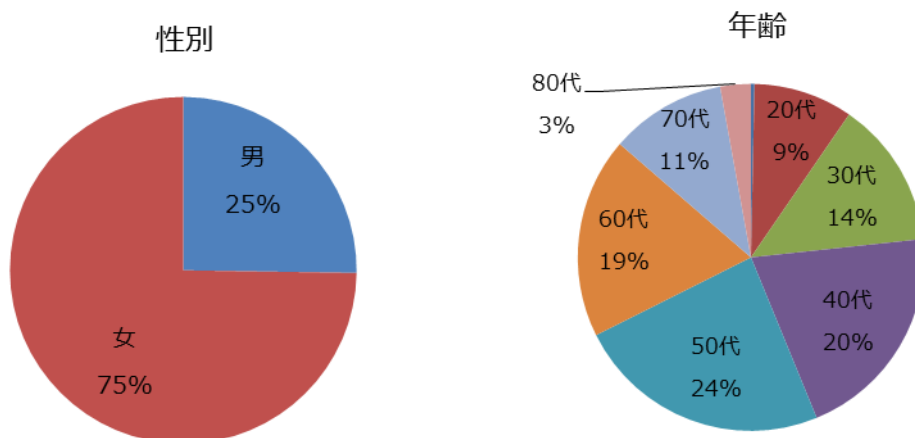
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 「平成 23 年度 市民講座アンケート集計報告」

勇美記念財団では、一般市民の在宅医療への理解を促し、その啓蒙・普及に貢献する「市民講座」の開催を支援しています。平成23年度は、全国各地で開催された38の市民講座に対し、助成を行いました。開催にあたっては毎回、参加された方々にアンケートを行い、在宅医療に対してどのような意識を持っているか、また自らの最期についてどのように考えているか、調査を行っています。ここでは、その集計結果をご報告いたします。

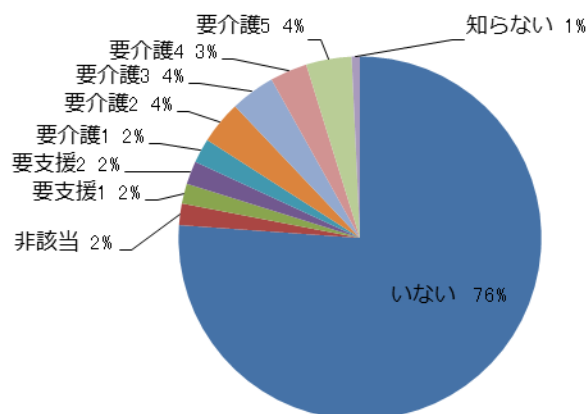
1. 参加者の概要

参加者の男女比は、これまでと同様、女性が4分の3を占めました。年齢層もこれまで同様、40～60代を中心に、10代～80代まで非常に幅広い層の方々にご参加いただいています。

また、介護している対象者の有無については、「いない」が4分の3を占めています。



Q 介護をしている対象者はいますか？



2. 介護の実態

続いて、「介護している方はいますか」の問いに「いる」と回答した方へ、その実態について具体的な質問を行っています。

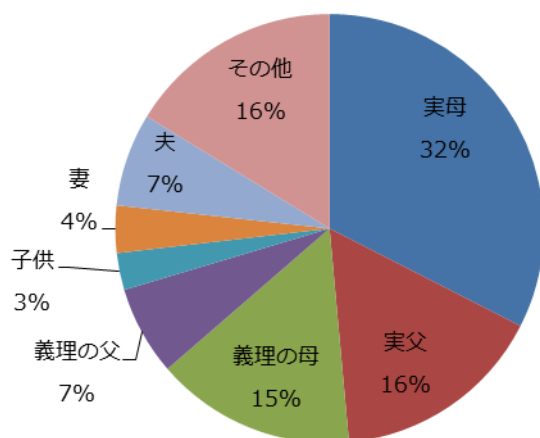
結果は、実母、実父、義理の母を介護している方の割合が高く、長期での介護を経験している方も少なくありませんでした。

①対象者との関係、介護度、療養場所など

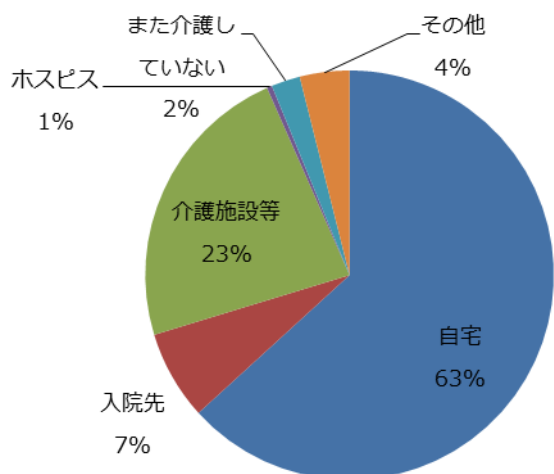
“誰を介護しているのか”の問いに対して、最も多かったのは「実母」で 32%。次いで「実父」「義理の母」と続いています。

介護している場所は、最も多いのが「自宅」で、昨年とほぼ同じ 63%。次に「介護施設」23%となっています。介護の期間は「5年以上」が 36%で最も多く、「3年」28%、「1年」19%と続いています。

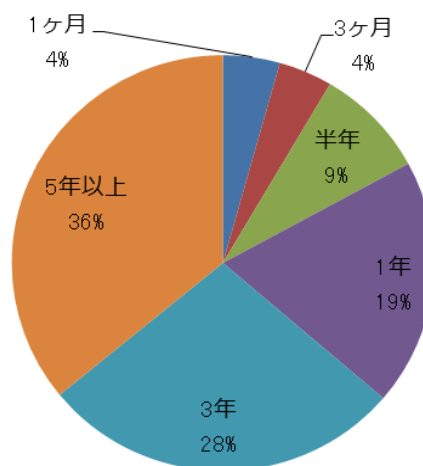
Q 対象者との関係は？



Q 介護している場所は？



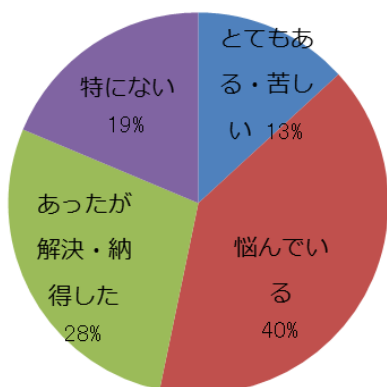
Q 介護の期間は？



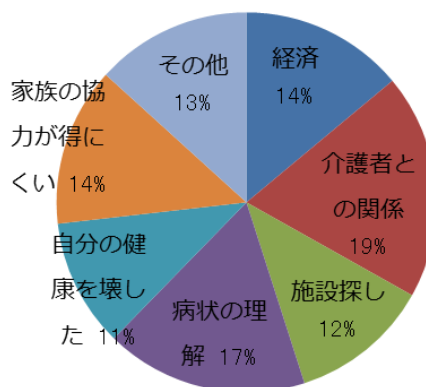
②介護における困難、および介護に不可欠な事項について

実際に介護をしていて感じる困難については、「とてもある・苦しい」と「悩んでいる」を合わせて全体の半分強。これは例年よりも若干少ないパーセンテージとなっています。困難の内容については、「介護者との関係」が19%で最も多く、「病状の理解」「経済」と続いています。複数回答をする方も多く、介護をする方がさまざまな困難を複合的に抱えていることがわかります。

Q 介護していて感ずる困難は？



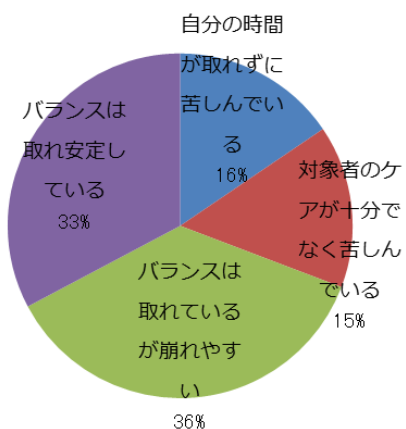
Q 困難の内容は？



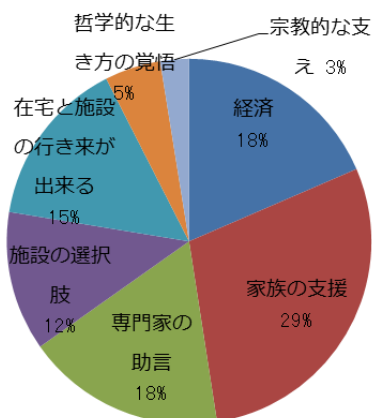
対象者のケアと自らの生活とのバランスについては、「バランスは取れているが崩れやすい」が36%で最多。「バランスが取れ安定している」という回答は33%でした。

自分の生活と介護を両立させるために必要なのは、「家族の支援」が29%と最多。次いで「経済」「専門家の助言」となっています。また、療養者本人がどこで最期を迎えることを希望しているかについては、例年同様、半数以上が自宅と回答しています。

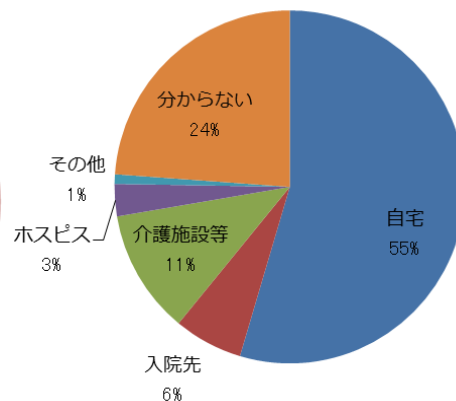
Q 対象者のケアとあなた自身の生活のバランスは取れていますか？



Q 介護と自分の生活の両立を助けるものは何ですか？



Q 対象者が最期を迎えるのに希望している場所はどこですか？



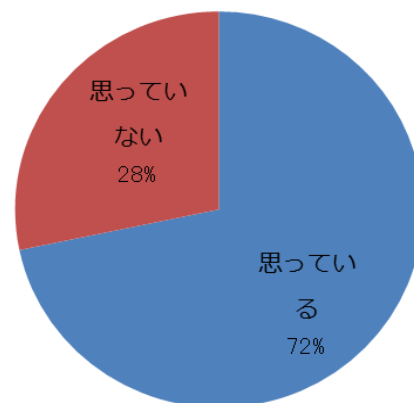
3. 自らが介護される場合について

では、自分自身が介護される側になった場合について、どのように考えているのでしょうか。

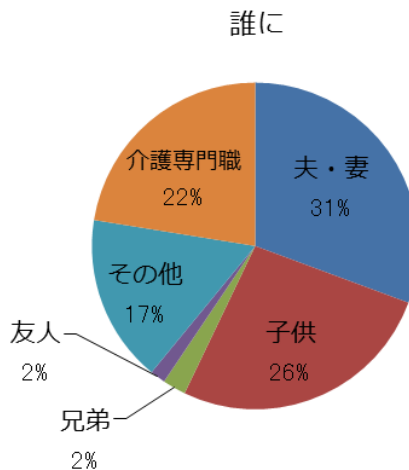
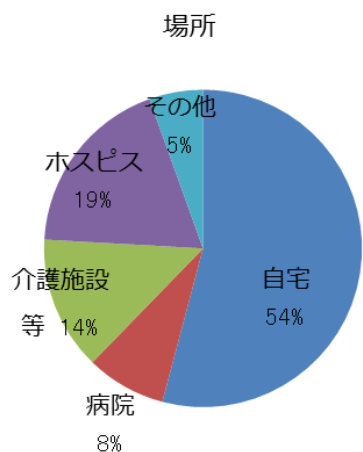
まず、自らが要介護の状態になることに対して不安はあるか、という問いには、7割強が「不安に思っている」と回答。療養場所については、自宅での最期を望むとの回答が過半数を占め、また多くの方が、介護は自らの配偶者もしくは子供にしてもらいたいと答えています。その場合の費用については、「心配」「わからない」を合わせて9割を越えています。

さらに、昨年度のアンケートから追加になった「リビングウィル(事前宣言書)」についての質問では、「書いていない」が約8割を占めています。リビングウィル自体を「知らない」という回答は、昨年度よりもわずかに減っています。

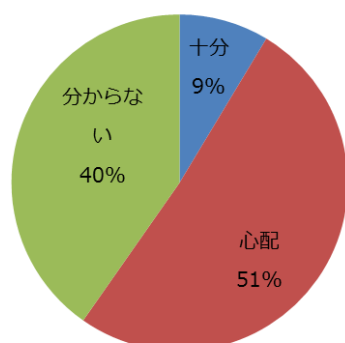
Q 自分が要介護になることを予測し、不安に思っていますか？



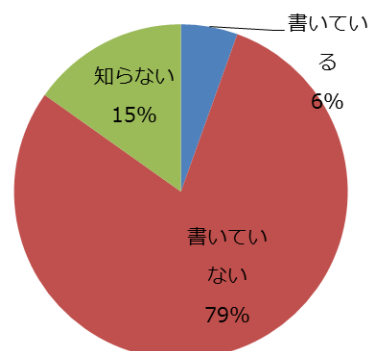
Q 要介護状態になった時、最期を迎えるのに希望する場所は？誰に介護してもらいたいですか？



Q その場合の費用は？



Q リビングウィルを書いていますか？



4. 今、一番必要としていること(自由記載)

本アンケートの最終項目、「今、あなたが一番必要としていること(自由記載)」ではどのようなコメントが寄せられたのか、主立った内容を下記にまとめました。

○地域で医療・介護を受けるための「知識・情報」が欲しい

「住んでいるまちで、いろいろなサービスを受けたい。そのためのまとまった情報が欲しいです。今回のフォーラムはその点で有意義でした」(70代女性)――

在宅医療を受けるためにはどうしたらいいか、より具体的な情報を求める声が、非常に多く寄せられています。これは市民の在宅医療への前向きな姿勢の表すものである反面、いかに必要な情報が不足しているかということの表れとも言えるでしょう。

〈その他のコメント〉

- ・「地域包括支援センター、病院など、あちこちに相談したが答えが見つからない。介護と生活を両立できるような支援をどうしたら受けられるのか、いろいろな情報が欲しい」(40代女性)
- ・「在宅医療の仕組み、方法をもっと世間に知らしめるために、コマーシャル・PRを盛んに行うべきと思います」(30代男性)
- ・「家族がいない一人暮らしの人はどのように最期を迎えるのか、政策、あるいは施設等の情報が欲しい」(50代女性)

○地域のつながり、コミュニケーション、理解者が必要

「介護に対して周囲からのねぎらいの言葉や、手助け、そして自由になる時間があれば、もっと楽しく介護ができるのではないかと思います」(40代女性)――

これは介護を経験されている方からのコメントです。介護する人にとって大きな力となるのが、人とのつながりであり、理解者の存在です。地域のつながりやコミュニケーションの重要性を強調する声は、非常に多く寄せられています。

〈その他のコメント〉

- ・「身内はもちろんのこと、隣近所の方々とのふれあい。誰とも話し合える雰囲気づくりに心掛けたいと思います」(70代女性)
- ・「認知症のケアは環境が非常に重要であり、家族や地域の方々の理解が不可欠。認知症についての教育が必要だと思います」(50代女性)

○地域で安心して暮らすための、地域資源や専門家のサポートの必要性

「独身なので、年をとって体の自由がきかなくなった時に、自分に合った施設が見つかるか、入れるかどうか不安です。もっと施設が増えることを希望します」(40代女性)――

このように、介護施設の整備が十分ではないといった指摘、あるいは介護施設での提供されるサービスの質に対する不安の声なども、多く寄せられました。さらに、専門家からのアドバイス

やコーディネートを求める意見、あるいは制度的な不備を訴えるコメントもありました。

〈その他のコメント〉

- ・「実母(要支援2)は地方の一人暮らしで、サービスの選択肢が十分ではなく、家族の手助けにより辛うじて生活が成り立っている。高齢化の進んだ地方でもっと支援が欲しい」(60代女性)
- ・「配偶者がいなくなった後の生活を考えると、専門家によるアドバイス、コンサルティングが欲しいと思う」(60代男性)
- ・「在宅介護をしているが、家族全員が出かけることになってしまった時に、預かってくれる施設がない」(50代女性)
- ・「高齢者だけで生活されている家庭も多い中、介護保険の手続きの困難さは何とかならないものか」(40代女性)

○医療者の対応への疑問、入院医療への疑問など

「少し体調が悪くなると入院を勧められます。少くならなら“大丈夫、任せて”と言ってくれるような、在宅のドクターがいて欲しい」(40代女性)――

今年のアンケートで目立ってきたのが、このコメントのように、医療に対する疑問や悩み、要望などです。老いる過程で必要なのは、必ずしも治す医療ではなく、支える医療である、といった意識が、市民の間にも少しずつ広がりつつあるのかもしれない。

〈その他のコメント〉

- ・「かかりつけ医が欲しいと思うが、流行っている医者ほど患者が多く、1人1分以内の診療ではインフォームドコンセントを受けられる雰囲気ではない。かかりつけ医とは何？存在がわかりません」(80代男性)
- ・「不必要と思われるほどの過剰な医療措置に対する医療側の反省。父は死の間際まで点滴を止めてもらえませんでした」(60代女性)
- ・「6年も寝たきり、長い経過の果てに最期を迎えようとしている義父に、これ以上、点滴などの治療をしたくないと思う。しかし、それでいいのかと不安にもなる。“ほったらかしにしているわけではないよ”と言ってくれる人が欲しい」(40代女性)
- ・「94歳の母に、自然な終末を迎えさせてあげたい。しかし、施設や現住診療ドクターは何かと心配して、治療を申し出てくるので不安をあおられる」(女性)
- ・「母が胃瘻を勧められた時、私は自然な看取りを望み増したが、弟はどんな姿になってもいつまでも生きて欲しいと言って、胃瘻になりました。廃用症候群になった母の姿に心を痛めています。ぜひガイドラインを作り、厳格な診断のもと、胃瘻の是非を決めて欲しい。できれば高齢者の胃瘻を無くして欲しい」(50代女性)

○サービス提供側からみた現状の課題や問題点

「在宅療養支援診療所に勤務しているナースです。自宅や施設、入院先などに出向きますが、まだまだ在宅医療はサービススタッフ中心になっている気がします。本人・家族がどう過ごしたい

か、そのお手伝いとして何ができるか、今後も考えていきたいと思いました」(40代女性)

市民講座には、実際に在宅医療・介護に取り組んでいる専門職の方々の参加もあります。今回のアンケートでは、サービス提供側の立場から見た現状、さまざまな問題点などについても興味深いコメントが寄せられていました。

〈その他のコメント〉

・「医療現場から高齢者福祉の現場に入りましたが、現場で働くスタッフの知識の低さに驚くばかりです。介護を担う従事者のレベルアップが必要かと思います。ナースも同じで、看取りに医療はいらぬということを知っていて欲しいと思います」(30代男性)

・「歯科技工士から介護へ転職しましたが、不適合の義歯を見つつも、経済的な理由等で治療につなげられないジレンマを感じている。保健等の仕組みづくりが早急に必要」(40代男性)

・「在宅医療を本当にできる医師、薬剤師が増えること。医療者が患者の気持ちに寄り添える力をつけないといけないと思います。介護職は、介護保険ができたことでずいぶん、力を付けてきたと思います」(50代女性)

2011(平成 23)年度 助成対象講座一覧

区分	No.	主催・テ ー マ
【前期】	1	がん患者と家族の会 くつろぎサロン、十和田緩和ケアセミナー実行委員会
		第 12 回十和田緩和ケアセミナー
	2	大田区介護支援専門員連絡会
		ターミナルケア ～住み慣れた街で最期を迎えたい～
	3	一般社団法人 日本介護支援専門協会
		看取りの体験から学んだこと ～住み慣れた自宅で暮らし続けるとは～
	4	健康生きがい学会
		健康生きがい学会 第 2 回大会分科会「生きがいと在宅医療」
	5	社団法人慈恵会、樋口ホスピタルサブライ株式会社
		在宅ホスピスのすすめ
	6	ナースのためのホリスティックケアセンター（仮）LLC 設立プロジェクト
		本音で語る広場：新潟『今だから言える 介護体験から医療現場に望むこと』
	7	NPO 法人結の会・ふくおか在宅ホスピスをすすめる会
		在宅ホスピスを語る会 in 久留米 2011
	8	奈良県、日本在宅ホスピス・緩和ケアネットワーク
日本在宅ホスピス・緩和ケアネットワーク市民公開講座 『もしがんになったら、あなたは人生の最後をどこで迎えますか？』		
9	いの包括ケアネットワーク研究会	
	いの町で、この家で最後まで暮らしたい！～家での暮らしを望む人、支える人すべてに～	
10	横浜市東寺尾地域ケアプラザ地域包括支援センター	
	その人らしい最後を支える、在宅での看取り力	
11	NPO 法人静岡難病ケア市民ネットワーク	
	在宅難病患者の医療・福祉向上を目指した懇話会	
12	特定非営利活動法人あいちクローバー	
	高齢者疑似体験を通じてお年寄りの気持ちになるろう／高齢者の安心な暮らしセミナー	
13	熊本在宅ドクターネット	
	住み慣れた町で最期まで暮らすために	
14	在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク	
	「自ら望む所で生き、死ぬることの幸せ」（鎌田實氏講演）	
15	徳島在宅医療推進フォーラム実行委員会	
	とくしま在宅医療推進フォーラム「患者・家族によりそう気持ち——共によるこび共に泣く」	

区分	No.	主催・テ ー マ
【後期】	1	宮崎キュアケアネットワーク
		人間らしく生き、自然な最後を迎えるために ～最後まで口から食べたい～
	2	明日の地域医療を考える住民の会・あした葉
		生活に寄り添う在宅医療の実現を目指して ～一度しかない命に寄り添いたい～
	3	ホームケアクリニック
		「あなたの大切な人と最期の時をどのように過ごしたいですか？」（映画上映・講演）
	4	特定非営利活動法人福島県緩和ケア支援ネットワーク
		在宅緩和ケアボランティア養成市民講座：アドバンス・コース
	5	福島市清明・吉井田地域包括支援センター
		あなたの心落ち着く場所はどこですか？ ～自宅で安心して療養するために～
	6	浦添市在宅医療ネットワーク
		看取りについて考えよう ～在宅（自宅や居住系施設）での看取りについて～
	7	日本死の臨床研究会関東甲信越支部
		ホスピスマインド！いつでも、誰でも、どこでも
	8	滋賀県済生会
		みんなで支える看取りについて
	9	一般社団法人藤沢市介護保険事業所連絡会
		第13回湘南在宅ケアセミナー「自分らしく生きよう！！～かぎりあるいのちだから～」
	10	特定非営利活動法人長崎県介護支援専門員連絡会
		在宅における看取りの在り方
	11	奈良介護保険研究会
		いのちに寄り添う終末期ケアとは
	12	患医ねっと
		私が選ぶ最後の時間 ～自宅で医療・福祉サービスを受けるということ～
	13	特定非営利活動法人うりずん
		重い障がいを抱え、医療依存度の高い子どものいのちと暮らしにどう向き合うか
	14	奈良県訪問看護ステーション協議会
		市民向け在宅医療推進フォーラム
	15	つるカフェ市民講座実行委員会
		つるカフェ市民講座「家で最期まで生きる」

【後期】	16	NPO 法人エイエスピーデュマンドクラブ
		介護する人される人、みんな集まれ「癒しの集い」～在宅医療とケアミュージックフェスティバル～
	17	医療法人社団裕和会 在宅ステーションかがやき
		介護者のためのきらめきのつどい ～かしこく笑顔ある介護をするために～
	18	文京根津クリニック、フロンティア薬局
		在宅医療市民公開講座「病気になっても自宅で過ごせる！」
	19	(社)沖縄県歯科医師会
		沖縄県歯科医師会の考える在宅歯科医療
	20	なごみの和
		なごみケア 緩和ケア ～大切な人を亡くした方を支えあう～
	21	城南緩和ケア研究会
		第 13 回城南緩和ケア研究会・市民のつどい「悲しみに寄り添う」
	22	札幌医療生活共同組合 ホームケアクリニック札幌
		末期がんになっても最期まで家で過ごすために